

## 大分県におけるハチクマの繁殖記録

渡会満寿男<sup>1,2</sup>・矢野真紀夫<sup>2</sup>

1. 〒870-0156 大分県大分市高城新町7-14 堀コーポ203
2. 希少生物研究会. 〒879-7141 大分県大野郡三重町大字秋葉640-3.

### はじめに

ハチクマ *Pernis apivorus* は、ロシア東部・モンゴル・中国北東部・北朝鮮北部・日本で繁殖し、東南アジアで越冬する中型の猛禽類で、日本では北海道から九州地方まで繁殖している(森岡ほか1995)。しかし、北海道や西日本での繁殖記録は少なく、繁殖記録が論文等で報告されていないため、日本鳥類目録(日本鳥類目録編集委員会 2000)では、九州地方におけるハチクマの繁殖は記載されていない。

大分県内では、1992年以前からハチクマが繁殖していることが確認されており(日本野鳥の会大分県支部 1992)、大分県版レッドデータブックでは夏鳥とされている(大分県生活環境部生活環境課 2001)。しかし、繁殖状況についての詳細な記録はない。そこで筆者らは、2003年 8月に大分県内でハチクマの繁殖を確認したので、その状況について報告する。

### 繁殖地の環境および調査方法

ハチクマの繁殖が確認された場所は、大分県大分市内の丘陵地から300m程度の低山帯である。繁殖地一帯はウラジロガシ *Quercus salicina*、アラカシ *Q. glauca* を主体とした常緑広葉樹で、スギ *Cryptomeria japonica*、ヒノキ *Chamaecyparis obtuse* 植林やアカマツ *Pinus densiflora* 林も多い。繁殖地の詳細な地名は、密猟や過度の観察行為を防ぐために明記しない。

営巣地の探索は 8倍の双眼鏡および20~60倍の望遠鏡をもちいた。営巣地を推定するため、定点調査にて親鳥による巣内ビナへの餌の運搬行動を観察し、現地踏査により営巣木の探索を行なった。営巣木を確認できた後に、巣から20mほど離れた場所にブラインドを設置し、その中から巣内の観察を行なった。調査は2003年 7月12、15日、8月 5、9、11、12日に行なった。

### 営巣の確認

2003年 7月12日にハチクマの雄が飛翔しているところを観察した。繁殖の可能性が考えられたため、営巣場所を明らかにする調査を開始した。7月15日にはハチの巣を運んでいる雄成鳥が観察され、8月 5日にはその運搬方向へ定点を移動して観察を行ない、低空を飛翔する雄成鳥を確認した。8月 9日にも同じ場所で定点観察を行なったところ、近隣の常緑広葉樹林内からハチクマの成

---

2005年12月 1日 受理

キーワード: ハチクマ, 繁殖記録, 大分県



図 1. 巢上にて蜂の幼虫を銜える雌成鳥(左)と巣立ち間近の雛(右)

Fig. 1. A adult female with a hornet larva in the beak (left) and her young (right).



図 2. ハチクマが繁殖した周辺環境写真

Fig. 2 The nest site of Honey Buzzards

鳥と思われる鳴き声が聞こえたので、その付近を踏査して営巣木を探索した。その結果、ツブラジイ *Castanopsis cuspidate* に巣(図 1)があるのを発見し、巣内には 1羽のヒナを確認した。営巣木の下から谷上方斜面にかけてハチの巣が 3つ落ちていた。

8月11日の 7時から10時まで巣内の観察を行なった。9時に雌成鳥が足でハチの巣を持って飛来し、幼鳥へ給餌した。雌成鳥は空になったハチの巣を巣から15m程離れたツブラジイまで運んだのち、下に落とした。

8月12日には定点観察にて、雄成鳥がハチの巣を足で持ったまま、営巣する谷の上空で飛翔をくり返す行動が観察された。営巣木を観察したところ、すでに幼鳥は巣立っており、11日の夜から12日の午前の間に巣立ったものと思われた。

個体の色彩タイプは、雄成鳥は中間型、雌成鳥はやや淡い中間型、幼鳥は淡色型であった。

なお、翌年2004年 6月 9日に同巣の営巣状況を調べたところ、抱卵する雌成鳥を確認した。

### 営巣環境

営巣木は貯水池のすぐ西に隣接する常緑広葉樹にあり、主稜線より北側に約 5m離れた標高約 80mの尾根付近にある高さ20m、胸高直径41cmのツブラジイで、周囲の高木層の中でも大きいもの

であった。

巣は、地上から 9m20cm で幹が二股に分かれた部分を含め、4本の枝に支えられた部分にあり、巣の大きさは地上からの目測で約90×80cm、高さ約60cmであった。

営巣地周辺(図 2)は、シイカシ林を中心とした常緑広葉樹林であった。高木層は高さ15~20m程度のウラジロガシ・アラカシで、ツブラジイは営巣木と利用していたもの以外にもう 1本あっただけで、亜高木層は欠いていた。低木層はネジキ *Lyonia ovalifolia* がほとんどで、やや離れた場所にヤブツバキ *Camellia japonica*, アオキ *Aucuba japonica* があつた。

## 考 察

大分県内では、1992年以前からハチクマの繁殖が確認されている(日本野鳥の会大分県支部 1992)。森岡ほか(1995)も大分を繁殖記録のある県としているが、いずれも観察者や営巣地ははっきりしない。以前よりハチクマの夏期の観察例は、少なくともなかったため(加藤吉勝 私信)、繁殖していた可能性は高いが、今回の繁殖記録は大分県内の繁殖状況が示されたはじめての記録である。

九州の他県についてみると、森岡ほか(1995)では熊本、長崎において繁殖が確認されるとし、熊本県では県内での繁殖例が数例ある(熊本県 2004)。長崎県では旅鳥として渡来し、上空を通過することが多い(長崎県自然保護協会 2001)とされ、繁殖の記録はない。福岡県では、英彦山などでは繁殖期に観察されているが繁殖の確認はなく(福岡県 2001)、佐賀県では夏期に生息が確認され、繁殖の可能性があるものの、個体数は少ない(佐賀県 2000)とされている。また、宮崎では春秋に 1羽から数羽の群れで渡来することが多い(宮崎県 2000)。鹿児島県では繁殖の確認はないが、夏期の観察例はある(鹿児島県環境生活部自然保護課 2004)。

ハチクマの渡り経路について、春は九州北東部(富高・山本 2002)や長崎県対馬(井上 1998a)を移動することがわかっている。秋は本州より九州北部~中部をとおり(武田 1989)、西海岸より大陸側に飛去することがわかっている(井上 1998b)。この、渡りの経路上での記録は夏期に多く、今後は繁殖が記録される可能性が大きいと考えられる。渡りの経路から外れている九州南部では、秋の渡りの時期に少数観察されている個体のほとんどが幼鳥であり(渡会 未発表)、繁殖している可能性は残るものの、きわめて少数と思われる。

## 引用文献

- 福岡県。2001。福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック2001。福岡県, 福岡市。
- 井上勝巳。1998a。春期に長崎県対馬を南下するハチクマとサシバ。Strix 16: 171-174。
- 井上勝巳。1998b。長崎県五島列島・福江島のハチクマの渡り。Strix 16: 109-120。
- 鹿児島県環境生活部自然保護課。2004。鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編-鹿児島県レッドデータブック-, 鹿児島。
- 熊本県。2004。熊本県の保護上重要な野生生物リスト レッドリスト熊本2004。熊本県, 熊本市。
- 宮崎県。2000。宮崎県の保護上重要な野生生物 宮崎県版レッドデータブック。宮崎県, 宮崎市。

- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男. 1995. 図鑑日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 長崎県自然保護協会. 2001. ながさきの希少な野生動植物 レッドデータブック2001. 長崎県, 長崎市.
- 日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録改訂第6版. 日本鳥学会.
- 日本野鳥の会大分県支部. 1992. 日本野鳥の会大分県支部20周年記念誌.
- 大分県生活環境部生活環境課. 2001. レッドデータブックおおいた 大分県の絶滅のおそれのある野生生物. 大分県, 大分市.
- 佐賀県. 2000. 佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 レッドデータブックさが. 佐賀県, 佐賀市.
- 武田恵世. 1989. 日本列島における鷹の渡り. *Strix* 8: 35-123.
- 立川孝之. 1999. 98年ハチクママラソン調査結果報告と概総評. 日本野鳥の会大分県支部報たより (154).
- 富高裕二・山本兆司. 2002. 九州北東部における春のハチクマの渡り. *Strix* 20: 107-115.

Breeding record of Honey Buzzards *Pernis apivorus* in Oita Prefecture, southern Japan

Masuo Watari<sup>1,2</sup> & Makio Yano<sup>2</sup>

1. 7-14-203 Takajousinmachi Oita-si Oita 870-0156

2. Working group on Threatened Wildlife. 640-3 Akiba Miemachi Oono-gun Oita 879-7141

In August 2003 we confirmed the breeding of Honey Buzzards *Pernis apivorus* in Oita Prefecture, southern Japan. We carried out the study on July 12 and 15 and August 5, 9, 11 and 12, 2003. The nest was located on a forked branch of a *Castanopsis cuspidata* tree. The nest tree was 20m in height with a diameter of 41cm at breast height. The nest was approximately 90cm by 80cm with a height of 60cm, supported by four branches at a height of 9.2m. Both of the breeding pair were of intermediate phase in plumage, though the female was paler, and their young was of light phase. This is the first record of Honey Buzzards breeding in Oita Prefecture, southern Japan. We also confirmed an incubating female in the same nest on June 9, 2004.

*Key words:* Honey Buzzards, Oita, *Pernis apivorus*